

すくも
自主防災会だより 第27号

地域の安全・安心

（行政と市民との協働について）

○「協働」の必要性

災害規模が大きくなればなるほど被災地は広域で被害は甚大となり、膨大な救助力を必要としますが、現実の救助力は極めて限定的です。



限定的な救助力を必要な時期と場所に効果的かつ集中的に投入するためにも、市民自らができることは市民自らが行うことが大変重要になってきます。自らの命は自らが守り、地域で協力し、そして更には行政とも協力することによって、大規模災

害にも有効に対処できるものと思います。

○「協働」する場面

行政と市民（主に自主防災組織）がコラボしうるのは、次のような場面になると考えられます。

①対策本部（等）の支援

対策本部（等）の設置運営、状況把握の補助、各避難所（避難場所）との連絡調整、関係機関との連絡調整、ボランティアセンターの運営協力など

②避難誘導の支援

避難の周知徹底、避難者の誘導（災害時要配慮者支援活動が重要）、残留者の有無確認、児童生徒の避難誘導支援など

③救援

避難所（避難場所）の管理運営及び各種業務支援、備蓄・救援物品の管理・仕分け・配分など

④行方不明者の捜索・救出等

捜索機関等への所在・行方不明者の具体的な情報提供（虫の目情報の提供）

○警報・避難指示等の伝達

警報等は、市町村長が所定の方法（伝達先、手段、伝達順位）で、住民及び関係する公私の団体へ伝達することになります。この際、防災行政無線（J-ALERT）、広報車、消

防団、指定放送業者、HPなど利用できるものを最大限利用して、その迅速・確実性を高めるべく努めるでしょう。
個人の入手方法としては、ラジオ、テレビ、エリアメールなどがあります。

防災情報入手方法



住民による伝達支援としては、自治会や自主防災組織による伝達（放送、拡声器等）そして情報弱者に対する特段の処置（FAX、直接往訪）、防災隣組組織などを中心に据えた近隣への声かけ等が考えられます。

宇須々木自主防災会
代表 河野 典生
※続きは2月号広報にて掲載します。

交通事故被害者の家庭をサポート

（独）自動車事故対策機構（NASVA）では、育成資金の貸し付けや介護料の支給、友の会への招待を行っています。

育成資金の貸付（無利子）

金額	一時金 155,000円 入学支度金 44,000円 月額 10,000円（または20,000円）
対象	自動車事故が原因で保護者が亡くなったり重度の後遺障害を残すことになった家庭（生活貧困家庭）の児童

介護料の支給

金額	30,000円～130,000円
対象	自動車事故が原因で重度の後遺障害が残り、介護が必要となった方
問	（独）自動車事故対策機構高知支所 ☎088-831-1817

お誕生おめでとう
（平成29年11月受付分）

住所	赤ちゃん	保護者
橋上町橋上	澤近 風舞	史拓
駅前町2丁目	山崎 双葉	充
高砂	西山 結	耕平
高砂	正岡 夢萌	慎司
高砂	梁田 拓翔	光一
長田町	溝渕 衣千果	健躬

ご冥福をお祈りします
（平成29年11月受付分）

住所	氏名	享年
小筑紫町呼崎	中田 繁光	67
中央2丁目	黒川 喜美恵	95
自由ヶ丘	堀岡 豊子	95
平田町戸内	篠田 勝金	95
中央6丁目	亀井 泉	85

※本コーナーの記事は、家族などからの申し込みにより掲載しています。（敬称略）

問 市民課 ☎63-1112